

【主題】 幼児期の子どもの集団行動の獲得過程

【副題】 ～パラバルーン遊戯を通しての子どもたちの成長～

【園名】 学校法人華光学園 認定こども園 長岡和光幼稚園なごみ保育園

【教職員名】 保育教諭 吉川 真未 若月 美紅

1. 主題設定理由（目的）

進級当初、初めての活動に対して苦手意識の強い子がクラス内に多くいた。集団遊び（ルールや勝敗のあるゲーム遊び等）では、行う前からその場に座り込んだり泣いたり、活動に参加できない姿があった。

毎年運動会にて4歳児クラスがバルーン遊戯を行うことが決定していたため、この活動を通して子ども達に集団で取り組むことの楽しさや互いを思いやる気持ちを育んでもらいたいと考えた。

子どもたちの反応を見ながら練習を進めたところ、最初は消極的だった子ども達も徐々に楽しさややりがいを見出すことができるようになっていった。バルーン遊戯という活動を通して子ども達にたくさんの成長が見られたことから、この主題を設定した。

2. 研究内容（実践）

【バルーン】

○6月8日

☆動画視聴、技クイズ

活動の導入として、まずは過去のバルーン遊戯の動画をプロジェクターで映し出し子どもたちと視聴した。自分のきょうだいの姿を探したり、曲に合わせて体を動かしたりする子もいたが、中には泣き出す子もいた。（Hちゃん）普段から初めての活動が苦手なため、不安を抱いたと予想される。

バルーンの技クイズでは、イラストで技の種類を掲示すると形から名前を予想したり、「やってみよう！」と意欲的に話したりする姿もみられた。



☆初回練習（持ち方の確認、こなみ、おおなみ）

技クイズで意欲的な発言が聞かれたため、初回練習を取り入れてみた。

バルーンの揺れの激しさに戸惑い、途中で泣いてしまう子がいた。（Mちゃん）

○6月20日

☆持ち方の復習、よこなみ、やま

持ち方を聞くと、「こうだよ！猫の手！」と実際にやって見せてくる姿があった。皆でバルーンを揺らす際、保育者が笛を鳴らすようにしたことで、前回よりも息を合わせて行うことが出来た。一方で、気分が高まりバルーンを強く引っ張ったり、私語を始めたりする子もいた。（Nくん）

○6月22日

前日の帰りの会で「またバルーンをやりたい。」との声が聞かれたため、練習を行った。

子どもたちの意欲をより引き出したいと考え、「バルーンマスター表」を作成した。表は子ども達の見える場所に掲示し、出来た技には花を付けていくことにした。技の難易度を星印で表示すると、星の数が多い技に挑戦したいと話す姿が見られた。



○6月28日

☆メリーゴーランド、あさがお

難しい技も保育者の話をよく聞き、すすんで挑戦しようとする姿が見られるようになってきた。何回か行い成功すると「すごい!」「できた!」と嬉しそうに話していた。

「曲に合わせてやりたい!」という声が聞かれたため、幼児向けCDを流し曲に合わせて行なってみた。音楽に合わせてリズムよく体を動かすという体験ができたことで、更に楽しさを感じた様子であった。

○7月11日

☆シーソー、ポップコーン

活動前にバルーン表を見ながら技の振り返りを行なうと「ポップコーンがやりたい!」と話す子が多くいた。そのため、カラーボールを用意した。ボールをバルーンの中に入れてみると大喜びで、最後の1個が出るまで皆で夢中になって揺らしていた。

途中、楽しくなりすぎて全体的に勝手な行動が目立った(激しく揺らす、勝手に中に入る等)。

○7月20日

☆ロケット

獲得した技の種類が増えてきたため、今まで行なってきた技を音楽に合わせて一通り実践してみた。色々な技が混ざったことで困惑する姿がみられた。

夏休み前には技を一通り行うことができ、バルーンマスター表が完成した。



～夏休み中～

バルーン遊戯の曲を、部屋で子ども向けCDを定期的に流していた際に反応の良かった“おどるポンポコリン”に決定した。

また、手作りの物を取り入れた方が子ども達の意欲が増すのではと担任間で話し合い、バルーン遊戯の前半にマラカス遊戯を取り入れることにした。マ

ラカスは子ども達と一緒に制作を進めた。



○8月25日

☆曲に合わせてマラカス遊戯・バルーン練習

マラカス遊戯からバルーンへの移動が間に合わず、バルーンを持つ際の間隔にバラつきが生じた。

曲のテンポについていけず、技にバラつきが生じたため、まずは音楽なしでゆっくりと技を確認するようにし、少し慣れてきてから曲に合わせて行うことにした。

○9月5日

☆バルーン (曲の最後まで)

バルーン遊戯には慣れてきたが、練習が長くなると集中が途切れてしまう様子が見られ始めたため、短時間で集中して練習を行えるようにした。中には「がんばるぞー! えいえいおー!」と全体に向けて声をかける子どもの姿も見られるようになってきた。(Nくん)

○9月7日

☆大技 (花火) が成功

最後の大技花火。なかなかボールが上まで行かないことに子ども達から、「天井まであがってほしい」との声が聞かれた。どうしたら成功するようになるか子ども達に考えてもらおうと「みんなで力を合わせないといけない!」との意見を出す子がいた。(初回のDVD鑑賞で、不安な気持ちから泣いてしまったHちゃん) 意見が出た後、子ども達には笛の音をよく聞き、笛が鳴ったらすぐにバルーンを床につけることを全体で意識して取り組むよう指導した。初めて天井までボールを飛ばせた際には「2回もできた!」と大喜びの様子が見られた。

○9月11日

曲の通し練習にも慣れ、スムーズに練習が進むようになってきた。ポップコーンや花火等のボールを使う技では、演技中にも関わらず飛んで行ったボールを取りに行こうとする姿が見られたため、最後までバルーンから手を離さないことを皆で決めた。

保育者の真似をする子やポップコーンを再現するために新聞紙でボールを作る子もいた。



☆園庭遊び

以前までは個々での遊びや、保育者を誘った追いかけっこが多かったが、バルーンの演技後は子ども同士での集団遊びが増えてきた。(鬼ごっこ、はないちもんめ、だるまさんが転んだ等)

☆退園児お別れ会

退園児のお別れ会の際、最後に一緒にしたいことを尋ねると集団遊びの案が沢山出た。(椅子取りゲームやハンカチ落とし等)



☆お遊戯会

初回の練習からほとんどの子が意欲的に参加することができた。周りを見て声を掛け合ったり、仲間を誘って自主練習をしたり、集団を意識した行動が増えた。

○2月22日

お遊戯会が終わった数日後、突然「もう一度いるか組でバルーンをやりたいな！」と話す。(Nくん) 自由遊びの時間に『おどるポンポコリン』の曲を流すと嬉しそうに踊ったりエアバルーンを楽しんだりしていた。

○3月21日

子どもたちのリクエストでバルーンを行った。振り

付けや技の順番を覚えている子が多く、久々とは思えないほど上手にでき、「大成功！」と喜んでいて。



また、曲中に出てこない技(きのこ、テント、シーソー)をやりたいと話す子もおり、進級前に行事を振り返り、皆で楽しい時間を過ごすことが出来た。



3. バルーン遊戯を通しての考察、まとめ

- ・初めての活動に消極的であった子ども達が、何事にもすすんで挑戦できるようになった。
- ・仲間と協力するという経験を重ね、その楽しさを実感できたことで、集団活動に対する抵抗が少なくなった。
- ・沢山話し合いの機会を設けたことで意見交換が活発になった。また、話し合いを通して考える力を養うことができた。
- ・音楽に合わせて体を動かす楽しさを経験したことで、表現の幅が広がった。
- ・自分だけでなく周りを見て行動できるようになり、クラス全体にまとまりが出た。